

分類：臨床医学V(CC1)

授業科目名：輸血学 臨床実習 (Transfusion Medicine)

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-29

1. 主任教員

高橋直人 (教授、輸血・細胞治療部、血液・腎臓・膠原病内科、6116、オフィスアワー：8：30-17：00)

2. 担当教員

高橋直人 (教授、輸血・細胞治療部、血液・腎臓・膠原病内科、6116、オフィスアワー：8：30-17：00)

奈良美保 (講師、輸血・細胞治療部、6313、オフィスアワー：8：30-17：00)

佐藤郁恵 (、輸血・細胞治療部、6313、オフィスアワー：8：30-17：00)

熊谷美香子 (、輸血・細胞治療部、6313、オフィスアワー：8：30-17：00)

佐々木綾子 (、輸血・細胞治療部、6313、オフィスアワー：8：30-17：00)

能登谷武 (、輸血・細胞治療部、6313、オフィスアワー：8：30-17：00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要

輸血医療に必要な知識を身に付け、根拠に基づいた医療を基盤に幅広い病態に対応する。(1-1)

輸血医療に関わる全ての人々の役割を理解し、連携する。(1-2,2-5～6)

医療倫理に則り、患者及び医療者にとって良質で医療安全に配慮した輸血医療を提供する。(4-6～7)

2. ねらい

自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を獲得する。(5-1)

輸血医療チームの構成員として相互の尊重のもとに適切な行動をとる。(2-5～7)

輸血医療ではインシデントを含む輸血過誤が日常的に起こる可能性があることを認識し、過去の事例に学び、事故を防止して患者の安全性確保を最優先することにより、信頼される医療を提供しなければならないことを理解する。(4-3～7)

3. 学修目標

自分に必要な課題を発見し、重要性に照らして解決できる。(1-1～2)

医療チームの構成や各構成員(とくに臨床検査技師)の役割分担と連携・責任体制を説明し、チームの一員として参加できる。(1-1～2,2-4～7)

医療上の事故を防止するためには、個人の注意(ヒューマンエラーの防止)はもとより、組織的なリスク管理(制度・組織エラーの防止)が重要であることを説明できる。(2-4～7,4-3～7)

4. 講義内容・具体的到達目標(4-6～7)

静脈採血を実施して、血液型判定を実施できる。

血液型検査、不規則抗体検査、交差適合試験を説明できる。

血液製剤・血漿分画製剤の種類と適応を説明できる。

輸血副反応、不適合輸血の防止手順を説明できる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

「輸血療法の実施に関する指針」「血液製剤の使用指針」(厚生労働省)

臨床輸血ガイド(文光堂)

よくわかる輸血学(羊土社)

輸血学(中外医学社)

5. 成績評価の方法

出席状況、検査実習の態度、口頭試問

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

健康な学生は献血を体験してみましょう。

輸血学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [ ] 副題 担当	
第 2 回 火曜日 [ ] 副題 担当	
第 3 回 水曜日 [ 9:00-17:00 ] 副題 担当 奈良美保、臨床検査技師	オリエンテーション 演習問題 採血実習 検査実習
第 4 回 木曜日 [ ] 副題 担当	
第 5 回 金曜日 [ ] 副題 担当	
第 6 回 月曜日 [ ] 副題 担当	
第 7 回 火曜日 [ ] 副題 担当	
第 8 回 水曜日 [ 9:00-17:00 ] 副題 担当 奈良美保、臨床検査技師	オリエンテーション 演習問題 採血実習 検査実習
第 9 回 木曜日 [ ] 副題 担当	
第 10 回 金曜日 [ ] 副題 担当	